



3月の園芸相談 Q&A

<果物の鉢植え>

Q. 果物を鉢植えでつくりたいと思います。植え方を教えてください。

A. ほとんどの果樹が鉢植えで育てられます。植える時期は3月上旬です。

－ポイント－

鉢植えの果樹はコンパクトに育ち、地植えより早くなり始め、果実の味は地植えよりおいしくなります。

1 鉢植えに向く種類

家庭用には小型で花粉用の木がいないブルーベリー、ラズベリー、スグリ、イチジク、ユスラウメ、キンカンがよいでしょう。

2 植え付け時期

木が成長を止めている休眠期に植えます。落葉樹も常緑樹も3月初めが適期です。

3 鉢

材料によって性質が違うので、果樹の特性に合った鉢を選びます。

素焼き鉢：過湿をきらうモモ、ビワ、ブドウ、ミカン類。

プラスチック鉢：湿気をこのむカキ、ナシ、イチジク

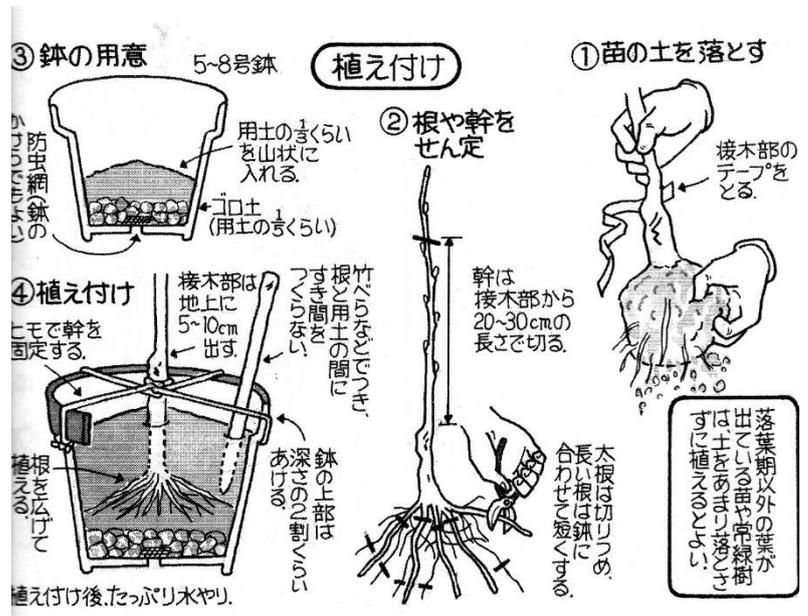
4 用土

一般には赤玉土と腐葉土を7対3か5対5の割合で混合します。この混合土はやや酸性なので苦土石灰を8～9号鉢に半にぎり（10～20g）の割合で加えます。

とくに酸性をきらうブドウ、リンゴなどは多めに加え、酸性をこのむブルーベリー、キイチゴなどは石灰を加えないで、腐葉土を半分にし、その分酸性のピートモスを加えます。

5. 植え付け方

太根を切り、幹を20～30cmに切って下図のように植え付けます。





<プリムラ・マラコイデスの葉の黄変>

Q. プリムラ・マラコイデスの苗の葉が黄色くなりました。原因と対策は？

A. 土がアルカリ性のために鉄などの微量元素欠乏症が発生したのでしょう。

微量元素肥料の水溶液を葉にかけてやります。

－ポイント－

土の酸度（pH）が高くなると鉄やマグネシウムなどの無機化合物が水に溶けにくくなり植物が吸収しにくくなるのでこれらの要素の欠乏症が起こります。

1 原因

苗を植え替えるときに、用土に加えた石灰分が多すぎて、土の酸度がプリムラ・マラコイデスの成長に適する値（6.5～7.0）を越えたのでしょう。土の酸度が高くなると鉄、マンガン、カルシウム、マグネシウムなどの無機化合物が水に溶けにくくなります。そのために、これらの無機化合物を根から吸収するのがむずかしくなります。葉の中の鉄やマグネシウムは葉緑素をつくる成分ですから、これらが不足すると葉の色があせて黄白色になります。

また、チッソ肥料などの不足の場合にも、下葉が黄色になります。

2 対策

土から株を抜いて石灰の入っていない土に植え替えます。葉が黄白色になった株には、市販の微量元素肥料（ヨーゲン強力2号；三井東圧化学など）を水で規定濃度にうすめて、霧吹きなどで葉の表面に散布します。あるいはエードポトリンA号（住友化学園芸）を、水やりの後で土が湿っているときに、株のまわりに数カ所に分けてうすめずにそのまま滴下します。黄白化した葉は元には戻りませんが、新しく広がってくる葉は緑色になります。肥料不足の場合には株は抜かずに、微粉ハイポネックスなどを1000倍にうすめた液肥を1週間に1回、水やりをかねて与えます。施肥後、1週間ほどで葉の色がよくなります。



鉄の欠乏症（プリムラ）



チッソの欠乏症（ペチュニア）